

平成30年度 放課後等デイサービス だいち 自己評価表

	設問	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標・工夫展等
環境・体制整備	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			
	職員の配置数は適切であるか	○			
	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮がなされているか		○		車いす使用の方用の出入り口はバリアフリーになっているがトイレ洗面所への入り口に段差がある
業務改善	業務改善をすすめるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画しているか	○			参画することができるようになった。今後はマニュアルを書式したい
	保御者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			
	この自己評価の結果を事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			
	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	30年度は第三者委員の都合で不可だった。次年度再依頼予定。
	職員の資質の向上のために、研修の機会を確保しているか	○			30年度通所施設見学・救急救命・虐待・権利擁護研修他
適切な支援の提供	アセスメントを適切に行い、子供と保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			
	子供の適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○		
	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			
	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	○			31年はニーズの低い運動を取りやめる代わりに、自立に向けて調理や食育に力を入れる予定
	平日・休日・長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			
	子供の状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等でサービス計画を作成しているか		○		重度障害の児童生徒に対しては個別支援を実施することがある。また軽度の生徒に対し学科のサポートを実施している。
	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			
	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	○			
	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			
	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			
ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○			自立活動・学校との連携・創作活動(季節ごと)地域交流・余暇・リラックス等	

関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子供の状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			但し今年度は担当者会議はなし	
	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子供の下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○				
	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		○			保育所等からの情報を受け取る体制にない。ただし児童発達支援事業との連携は取れている
	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか		○			但し障害福祉事業所から情報提供の依頼がない
	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		○			繋がる事が出来たので来年は全員受講したい
	放課後学童クラブや児童館との交流や、障害のない子供と活動する機会があるか	○				
	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○				
	日頃から子供の状況を保護者と伝え合い、子供の発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○				
保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか			○		基本的にどの保護者も就労している上に(その為にデイを利用)複数の事業所を利用しており、開催しても参加が見込めない。また職員の移動により今年度は実施困難だった	
保護者への説明責任	運営規程・支援の内容・利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○				
	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○				
	父母の会の活動を支援したり、保護者等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			○		基本的にどの保護者も就労している上に(その為にデイを利用)複数の事業所を利用しており、開催しても参加が見込めない。また職員の移動により今年度は実施困難だった
	子供や保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子供や保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○				
	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子供や保護者に対して発信しているか	○				
	個人情報に十分注意しているか	○				
	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○				
	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○				

非常時の対応	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			
	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出そのた必要な訓練を行っているか	○			
	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			
	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子供や保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等サービス計画に記載しているか	○			
	食物アレルギーのある子どもについて、意思の指示書に基づく対応がされているか	○			
	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			様式作成済。大きなヒヤリハットは発生していない。虐待権利擁護研修で事例等を提示

<自己評価表(ガイドラインとは)>

◆これは、平成24年4月に創設された放課後等デイサービス事業が全体的に見てまだ一定の質を保てていないことから国が定めたガイドラインに基づくものであり、評価をすることによって、より質の高い事業実施ができるために使用するツールです。

◆評価表の中で、改善点の指摘が多いことが直接的に低い評価につながるという意味ではない。

◆改善点に気づき、より良い支援を提供する視点をつくっていける指導員を育成することが重要であると考えていく
<くだいの考える評価ステップ>

保護者等による評価+職員による自己評価⇒改善点の提案⇒分析・結果。改善案の公表⇒目標に添った支援の改善

◆改善が必要な点については、物理的に可能な事においては、速やかに改善をおこなっていく。

体制等や他事業との連携等については、市内の他事業所との連携の確立が求められる。

当ガイドラインの項目に限らず、指導員・事業者・保護者からの指摘等があれば随時項目を追加し、よりよい事業体制が整えられるよう努めていく。

◆ 次年度はアンケート様式に具体的回答を得られるように変えていく予定。